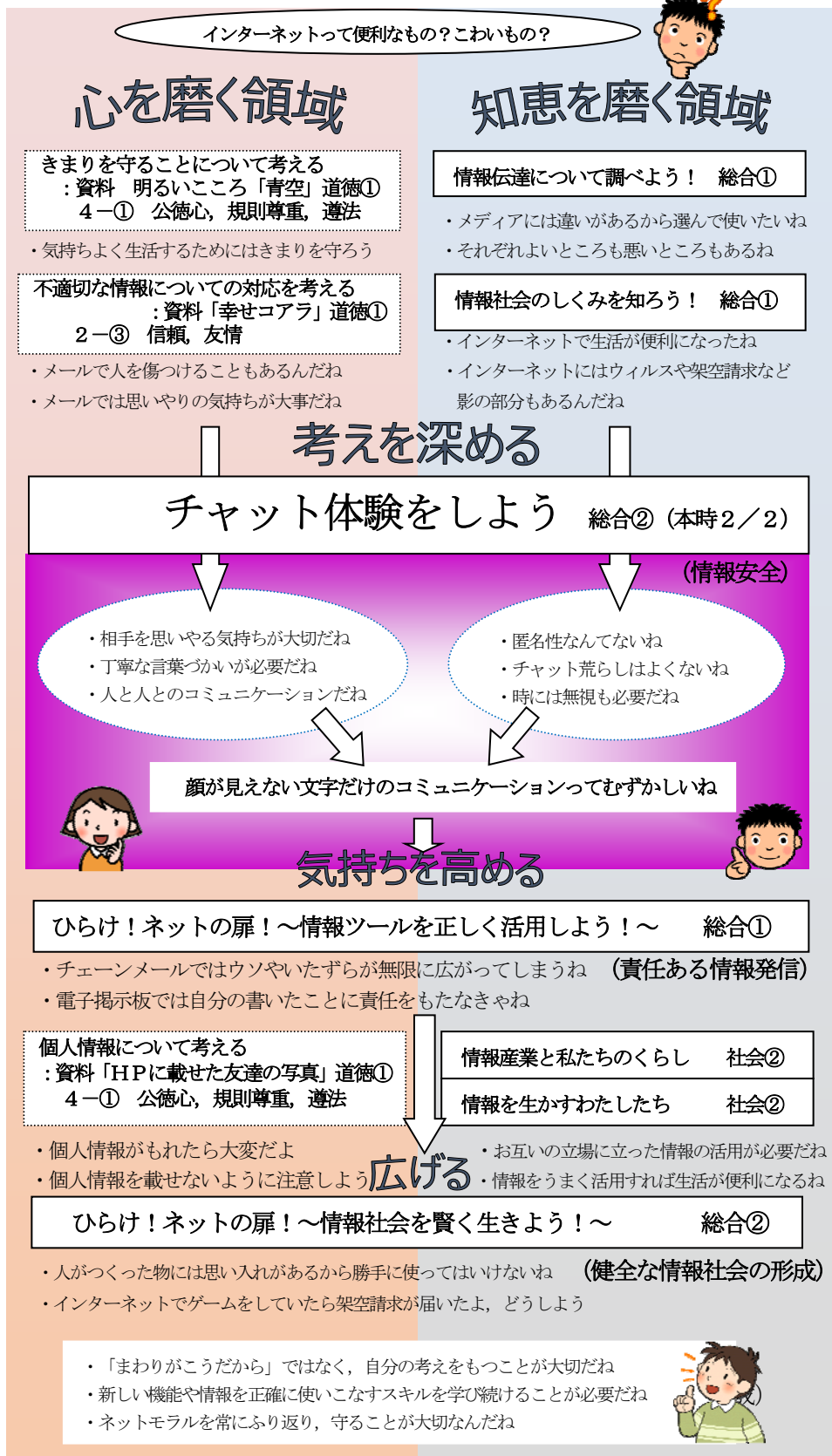


活 用 事 例	愛知県豊橋市立牛川小学校	鈴木康弘校長
活用事例タイトル	ひらけ！ネットの扉！～情報社会を賢く生きる～	
対象授業科目/活動	総合学習	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	【単元名】 ひらけ！ネットの扉！～情報社会を賢く生きる～ 【授業者】 天野陽一教諭 【対象学年】 小学 5 年 【ICT 使用場面】 本学級の子どもたちには、自分の意見を素直に発表できたり、新しいことに興味をもって取り組んだりする姿が見られる。最近では、実際にインターネットを利用しての「調べ学習」や、キーボードの操作に興味を示し意欲的に取り組んでいる。家庭に戻れば、パソコンを通してゲームや動画を楽しんでいる子もいる。子どもたちは今後、個人の携帯電話を所持したり、掲示板やチャットなどの匿名によるコミュニケーションを行ったりする機会も増えるだろう。そこで、インターネットを使うときのコミュニケーションのマナーやモラルを身につけてほしいという願いから本単元を組んだ。 本時まで、「きまりを守ることの大切さ」や「相手を思いやる心」などを育てる道徳の授業、情報手段のさまざまな特性や問題点などを総合的な学習の授業で学習してきた。 本授業では、「つたわるねっと」のチャット体験を利用する。前時では実際に一人ずつチャット体験をさせ、同時に複数の人と会話ができる楽しさを味わわせた。本時では、グループでチャット体験をする。そして会話の中にチャット荒らしを登場させ、トラブルに巻き込まれるという疑似体験をさせる。それにより、文字だけで思いを伝えることの難しさに気づかせる。また、匿名だと思っていても個人が特定できることにも触れ、チャット荒らしになるような書き込みをしないように指導していきたい。	
ICT 活用により期待できる効果 ICT 活用のねらい	【単元のねらいと目標】 ・ ネットワーク上のルールやマナーについて考え、正しく活用しようとする。 (関心・意欲・態度) ・ 情報には誤ったものや危険なものがあることについて考えることができる。 (思考・判断) ・ 情報機器を利用する上で必要となるモラルやスキルについて資料から学ぶことができる。 (知識・理解)	

- 1 総合単元 ひらけ！ネットの扉！～情報社会を賢く生きる～ (本時6／14)
- 2 総合単元のねらい
 - ・ ネットワーク上のルールやマナーについて考え、正しく活用しようとする。 (関心・意欲・態度)
 - ・ 情報には誤ったものや危険なものがあることについて考えることができる。 (思考・判断)
 - ・ 情報機器を利用する上で必要となるモラルやスキルについて資料から学ぶことができる。 (知識・理解)
- 3 単元の構想 14時間完了 総合7 社会4 道徳3 (※支援・留意点 ◆ICT活用)



◆資料への興味をもたせるために，物語の挿絵やポイントとなる部分を大型テレビで提示する。 【興味関心】

※資料を読み考えることで，便利な携帯電話を使うときでも，相手を思いやる気持ちや正しい行動をすることの大切さに気づかせる。

◆見えない相手とのコミュニケーションのとり方を学ぶために，「つたわるねっと」のチャット体験を利用する。 【興味関心】

◆一人一人の考えがグループの意見に反映されるように，コラボノートを使って考えをまとめたり，発表の際に提示したりする。 【表現・説明】

※自分の考えを確立させるために，それぞれの立場に分かれて話し合いに参加させるようにする。

◆今までの調べやまとめを生かしたり，友達のまとめを参考にしたりできるように，コラボノートを使って提言書をつくる。 【表現・説明】

※社会の学習の中でも情報モラルを取り上げることによって，新聞などの携帯電話以外の情報伝達手段についても学習を深める。

※便利だからすぐに使うのではなく，また逆に心配だから使わないのではなく，正確な情報を得て，賢く使っていくとする気持ちを高める。

4 本時の授業について

本学級の子どもたちには、自分の意見を素直に発表できたり、新しいことに興味をもって取り組んだりする姿が見られる。最近では、実際にインターネットを利用した「調べ学習」や、キーボードの操作に興味を示し意欲的に取り組んでいる。家庭に戻れば、パソコンを通してゲームや動画を楽しんでいる子もいる。子どもたちは今後、個人の携帯電話を所持したり、掲示板やチャットなどの匿名によるコミュニケーションを行ったりする機会も増えるだろう。そこで、インターネットを使うときのコミュニケーションのマナーやモラルを身につけてほしいという願いから本単元を組んだ。

本時まで、「きまりを守ることの大切さ」や「相手を思いやる心」などを育てる道徳の授業、情報手段のさまざまな特性や問題点などを総合的な学習の授業で学習してきた。

本授業では、「つたわるねっと」のチャット体験を利用する。前時では実際に一人ずつチャット体験をさせ、同時に複数の人と会話ができる楽しさを味わわせた。本時では、グループでチャット体験をする。そして会話の中にチャット荒らしを登場させ、トラブルに巻き込まれるという疑似体験をさせる。それにより、文字だけで思いを伝えることの難しさに気づかせる。また、匿名だと思っていなくても個人が特定できることにも触れ、チャット荒らしになるような書き込みをしないように指導していきたい。

- (1) 目 標 ・ 文字だけのコミュニケーションについて、使い方や注意することがわかる。
- (2) 準 備 プロジェクタ スクリーン PC 児童用PC 7台 ワークシート
- (3) 展 開

時間	学 習 活 動	※支援・留意点	◆ICT活用	☆評価（方法）
	1 前時の学習をふり返る。 前回チャット体験をした時の感想を発表しよう ・ みんなと一緒に会話できて楽しかった ・ すぐに返事が返ってきてうれしかった ・ 相手がわからないので言いたいことが言えた		◆前時に行ったチャット体験をふり返るために、ハンドルネームと内容の履歴を映し出す。 【ふり返り】 ※チャットのよさを引き出すために、楽しかった点を中心に発表させる。	
5	2 グループに分かれてチャットをする。 もう一度グループでチャットをしよう ・ 返事のスピードが速くて楽しいな ・ あれ、変な文章がでてきたよ。誰が書いてるの ・ 関係ない話ばかりしないで		※前時と同じように、楽しくチャット体験をするために、「好きな食べ物」などのテーマを与える。 ※チャット体験を5分間した後に、会話に関係ない話をするチャット荒らしを出現させ、子どもたちの気持ちを揺さぶる。	
15	3 グループで話し合い、感想を発表する。 チャット荒らしが出てきたとき、どんな気持ちになったかな ・ 真剣にやっているのを邪魔されて腹がたった ・ つられて関係ないことを書き込みそうになった ・ 深く考えずに何でも書き込んでしまった ・ 相手がわからないので悪い言葉を返してしまった		※教師の切り返しにより、チャットの特性について考えさせ、相手に誤解を与えやすいことや一度書いたものは容易に取り消せないことなどを理解させる。 ※チャットのもつスピード性で判断力が鈍ることや相手の顔の見えないやり取りにより、自分もチャット荒らしになってしまう可能性があることにもふれる。 ※チャット荒らしに遭遇した際には、無視することも必要だということを知らせる。	
30	4 グループ名入りの履歴を見る。 実は誰が書いたかわかるんだよ えっ！ びっくり ・ 名前はわからないと思っていたけどわかるんだね ・ あまり変なことは書き込めないね		◆個人が特定できることを知らせるために、本時のグループ名入りの履歴を映し出す。 【情報共有】 ※チャットを管理、運営している人には、書いた本人を特定できることを知らせる。	
35	5 本時のまとめをする。 今後、チャットをするとき、どんなことに気をつけて使えばよいか ・ 大変便利なのでルールを守ってうまく活用したい ・ 書き込む文章をちゃんと考えて使いたい ・ いろいろな人が見ていることを考えて使いたい		※ワークシートに記入する時間を確保することで、これまで話し合ったことをもとに自分の考えを整理させる。 ☆チャットを利用するときに、気をつけることがわかったか。（ワークシート）	